





平成 1 5 年 支 部 忘 年 会 (12月13日(土)日田市・小松軒)

では、 での時間を利用して鉄輪にある大谷光瑞の墓を詣でた。 を流して斫石トンネルに向かう。宝珠山村に入ると家々の さい大木が目に付き、棚田百選に選ばれている棚田が美しい。装備を整えてトンネルに向かう。宝珠山村に入ると家々の おの植林地につけられた登山道は暗く急である。ほどなく釈迦ヶ岳との分岐に出て左手の道に入る。露岩をトラバースした後、再び急登が続く。息をつかせぬ登り始める。 おの植林地につけられた登山道は暗く急である。ほどなく釈迦ヶ岳との分岐に出て左手の道に入る。 がの植林地につけられた登山道は暗く急である。ほどなく釈迦ヶ岳との分岐に出て左手の道に入る。 がの植林地につけられた登山道は暗く急である。ほどなく釈迦ヶ岳との分岐に出て左手の道に入る。 された場所からはこれから向かう釈迦ヶ岳から英彦山への展望が開けている。

を立めていた。 を対して重要な役割を演じてきたが、 を対したいと、 を対している。 として、 を対している。 として、 を対している。 に埋もれて、 に埋もれた歴史を掘り起こしながら、安全・快適 に埋もれて、 に埋もれた歴史を掘り起こしながら、安全・快適 に埋もれた歴史を掘り起こしながら、安全・快適 に埋もれた歴史を掘り起こしながら、安全・快適 を引きるたびに気になっていた峠である。 今回登った岳滅鬼峠は、近くにあるガラメキ峠とともに あまたある峠の中から一八の峠を選び実施している。 かまたある。 や回登った岳滅鬼峠は、近くにあるガラメキ峠とともに を対している。 を消し を引きるたびに気になっていた峠である。 今回を見るたびに気になっていた峠である。 や回を見るたびに気になっていた峠である。 から、安全・快適

# 八分県岳滅鬼峠 ピー・アング

重廣恒夫

( もくじ )	
大分県岳滅鬼峠 (重廣)	1
向坂山~三方山往復縦走	2
峠トレッキングと忘年会	3
田原山 (鋸山)	4
時山・雪の中を歩く	4
九州地区5支部懇談会報告	5
厳冬期の北海道登山?	6
私の無名山ガイドブック®	6
年次晚餐会報告	7
お知らせ	8
<b>後</b> 章	0



者が一人だけの静かな頂上であ 岳の頂上に着いた。ここも先行 頂上から往路を下り、直登ル トの急登を喘ぎながら釈迦ケ (釈迦岳山頂にて)

多くなり花の季節には多くの登 ら先行した人達、岳滅鬼峠から 山者を迎えるこの場所も、今日 り前後の距離表示に頂上が近い えるが、しつかりした道標もあ その昔英彦山と宝満山に続く修 れから向かう岳滅鬼山など三六 上に行き交う登山者の姿は無い。 は薄っすらと積もった雪の稜線 ことを知る。頂上に近づくと 験道の道を辿る。途中湯谷越 ○度の展望である。小休止の後 「シャクナゲ自生地」の立札が 辿りついた頂上は釈迦ヶ岳か 遮るものの無い頂上からはこ 深倉越と三つの峠を越

た梯子やロープのルートを急降 らの下りは急な岩場につけられ 地をつけて昼食とする。頂上か 持ち上げたスープや甘酒で人心 かる。残った者はあずささんの 切った先行組は早々に下山にか 下して岳滅鬼峠に到着した。

談義に耳を傾けながら夜が更け ワグマの目撃談や登山地図作成 本酒や焼酎の杯を重ね、ツキノ 参加者の持ち寄ったお奨めの日 いしい料理に小竹さんや安部さ 部長の発声で宴が始まった。お 州支部の忘年会場へと向かった。 は感激する。降り立った登山口 をくぐる。いつも自然の造作に 九折を下ると途中の「法華舘」 無言で語っている。峠から九十 の苔むした国境石が長い歴史を な峠には「従是北豊前国小倉」 と豊前・小倉藩とを分ける重要 旅館で開催された。梅木秀徳支 手で車が回送されており、東九 には日田市在住の佐藤さん達の んの手作り惣菜が花を添える。 夕方から忘年会が日田市内の 江戸時代に天領であった日田

国東半島の田原山を登った。ア ルペン的な岩山に最後の紅葉が 翌日は加藤英彦さんの案内で

(この寄稿は歴史峠トレッキン

直登した人達と合流して賑やか

の音頭で万歳三唱した後、冷え と九州の三角点を渉猟した西孝 子さんの一声に、佐藤秀二さん になった。その昔今西錦司さん 日メールで送って頂いたもので を依頼したら御快諾下さり、後 グのあとの忘年会の席で、執筆 K·I)

# 5

月月例山行報告

長 野 珪 子

思った・・・ 行きはよいよい帰りは・・・ 自分の足を褒めてやりたいと

それぞれがテントやマイカーで や!」、すると誰かが「トヨタ ン座や!」「馭者座のカペラ お寝みなさい。 居たんだ。)かくしてその夜は、 ・・。(失礼、今、青春の人も や!」「ミツビシや!」と応酬 夜空を見上げて誰かが「オリオ の星空となった。 楽しい夕食が終わる頃には満天 キー場(カシバル峠)での遅い 降り出した雨は、五カ瀬町のス し、青春時代にタイムスリップ ーを出発。野津原町あたりから 一一月一五日夕方五時、サニ

て置いた。登りはゲレンデ側か キー場ゲレンデの最上部に分け 翌朝、車を杉越の登山口とス

> ということだ。六時三七分にゲ 撮ったが、アラッ、 根だ。ここで全員の記念写真を って見える。さすがは九州の屋 小川岳と、山々が幾重にも重な が西方に、南には霧立越、北に で山頂に。木々の間から三方山 レンデ出発、向坂山へは二七分 ら、下りは杉越経由で登山口に



県境を三方山まで往復一一、二 さて、ここから熊本と宮崎の (向坂山にて)

時五分)

キロメートルの縦走開始。

ŧ

広く刈られていて、周りはブナ らと、気持ちを軽くして出発。 たら途中で止めればいいんだか と少し不安だったが、ダメだっ ので、最後まで歩けるだろうか や落葉樹の林で、落ち葉を踏み 縦走路はスズタケがかなり幅 最近は長距離を歩いていない

そんな物もってない。Nさんが

簡単なストレッチで幸いに治ま 効くかどうか?と教えてくれた

も無理せんように」と優しい言 まで」と別れる時、「長野さん どこかで鹿のかん高い鳴き声が 葉をかけてくれた。 三二九m)でAさんが、「ここ ながらの快適な歩きとなった。 二つした。二つ目のピーク(一 さて、まだ調子は良いが、私

されていて、標識も一〇〇〇メ タケの香りと教えてくれた。き やらよい香りが漂っていて、キ 鞍部との高低差が一六〇メート 三方山までの道は実に良く整備 大きな倒木のあるあたりでなに かピークがあったが、一番低い もどこまで行けるやら。いくつ 〇分で歩いた。 ートルごとにあり、だいたい三 つさがとれるような香りだった。 ノコに詳しいIさんがブナハリ ルくらいの尾根道で歩きやすい

さんが塩を舐めたらと言うが、 ぎた。自分の足をほめてやりた 桜の樹、天女ガ岩など順調に過 パールに行っている西さん、今 かけて、ヤバイ!・・。「足 最後のピークで大事な足がつり 分に三方山を後にする。分水古 日はどうしているかな?) 心なしか、皆声が小さい。(ネ こで初めてバンザイとヤッホー。 つった。」と声を上げたら、K い、などと思って歩いていたら、 昼食をすませて、一〇時二五 九時五〇分、三方山到着。こ

いでは? (まさか歳のせ

らの幸せな山行でした。 分に下山。ゆく秋を惜しみなが 越)を経て登山口に一四時一〇 の記念撮影。そして白岩峠(杉 そしてそこには、朝いなかった かが言ってたが私もそうだった。 登るのは初めての経験。」と誰 着いた。「一日に同じ山に二回 一人が出迎えてくれて、二回目 一三時二〇分に向坂山に帰り

山して来ました。 峠から白岩山に足を延ばして下 KさんとSさんは白岩

(十一月十六日)

参加者…安部、飯田、児玉、佐 佐藤(荘)、 遠江、

# 月月例山行報告

玉 良

はもう少し先の三角点のある場 峯」とありました。「白岩山」 は「白岩山」ではなく「白岩岩 岩山」と山頂標記があった場所 を延ばしましたが、家に帰って 最後に二人で「白岩山」まで足 ってきました。十一月の山行の 四日にもう一度「五カ瀬」に行 「みやざき百山」を見ると「白 私と佐藤荘吾先生は、一二月

日に休みを取ってリベンジに行 所だと書いてありました。そこ ってきました。 らないということで、十二月四 ば「白岩山」に登ったことにな で、この三角点まで行かなけれ

どちらが正しいのやら? もう一度、違う「新編九州の山 には「水呑ノ頭」とありました。 場を挟んで見えていた「小川岳 と高原(折元著」「九州の山 した。しかし「白岩岩峯」には 点(一六四六、四m」に登りま 峯」が「白岩山」で、<br />
三角点は 「白岩山」という標記、三角点 次に「白岩岩峯」そして「三角 (一五四二・一m)」に登り、 「水吞ノ頭」となっていました。 (立石著)」を見ると「白岩岩 先に、「向坂山」からスキー

から出たころには雨が激しくな 忘年会へと出発しました。温泉 行き「温泉」につかり、学校の はとても登りやすい「大分百 したので早々に下山し、長湯に 山」の一つです。小雨が降り出 たん帰宅し、次の日は宇目町の が天気は下り坂とのこと。いっ から、一泊して近くの「祇園山 場も人工雪でしたがオープンし :揺岳」に登ろうと思いました ていました。せっかく来たのだ 「横岳」に登りました。この山 「天神原山 (二等三角点)」、 この日は晴天でした。スキー

# と歩く

十二月月例山行報告

加

場させて恒例の行事が実現でき シックスの「峠シリーズ」を登 画は出来なかったが、今年はア 昨年は重廣さんの都合でこの企 年会を兼ね、重廣恒夫さんを囲このところ毎年の暮れは、忘 んで行われてきた恒例の登山会

る加藤が、車を廻すために残り、 していた。肩の痛みをうったえ りのアシックスー行三名も到着 せて追いかけてくるとの連絡が 途中、携帯にて日田の佐藤さん 佐藤(秀)、小竹の到着を待つ 十一名にて峠を出発。 が車を下山口に廻す運転手を乗 て、八時過ぎ、四台にて出発。 口のコンビニに集合。福岡から 発。七時過ぎに日田インター出 十二月十三日(土)、午前六 車三台に分乗してサニー出

が、湿っていて始末が悪い。安 わったのだ。今年初めての雪だ 化粧だ。昨夜降った雨が雪に変 部さんと女性二名は大日岳との 峠の周辺の林はうっすらと雪

林道の登りで雪のため乗用車二 て中山林道終点まで廻す。最後 車を宝珠山、小鹿田皿山経由に 手四名を乗せて到着を待って、 べく日田から佐藤(浩)が運転 残りの組は大日岳をピストンし コースをとる。一方、車を廻す

の忘年会で宿にて再会を約して。 を乗せて日田に引き返す。今晩 まで来て、ここで四人の運転手 中の西、小竹を乗せて林道終点 点まで廻す。一方佐藤(浩)さ んは日田に一旦引き返し、待機 放置して、あと四駆二台を最終 台はスリップしたため道路脇に

濡れてくる。三峰のいやらしい ここからの縦走路は雪が少し多 登りとも同じ雪の状態である。 状態で、手袋に雪が湿っていて プがあり、雪がロープについた 場のところには丸太で組んだは 認できるほどである。一峰の岩 くなって一人の先行の足跡が確 岳滅鬼峠までは二十分で到着。 を登りにかかる。法華岩を過ぎ 昨夜の雪で湿った状態の、雪道 人は登山開始。(十一:〇〇) しごがある。二峰の登りはロー ここから、加藤、西、小竹三 滅鬼山頂付近より振り返る

なっている。最高点を過ぎ、三 と、英彦山本峰北側は真っ白に ると三五分遅れて西、小竹のビ :〇〇) 一人で昼食をとってい (<del>+</del> =

> 待つことしばし。 縦走組をコールするが反応なし。 が陰ると雪のためにやや寒い。

歩いたが、さすがに大日岳ピス 岳をピストンした組(重廣氏以 の中、三人(安部、長野、今かえ、新雪の中、ザクザクと雪 追いつくのは無理だったという トンに約二時間かかったので、 かれるかも知れないと思いつつ 二五分で到着。安部組は追いつ 下七名)はそれから遅れること 五十)すぐに昼食をとる。大日 った分早く到着する。 (十二: 山)が大日岳をピストンしなか ことだ。 下からコールで縦走路へ出



長野)は三峰の下りを敬遠して、 頂上より直接林道に下るルート そして万歳の音頭を佐藤(秀) 全員揃ったところで記念撮影 四名(安部、西、小竹、 (岳滅鬼山にて

西あずさのつくった熱い甘酒を べく下っていった。残りの組は いただき、下山へ。 いたので、そのルートをとる (浩) さんから教わっ

携帯にて連絡がとれ、四名を収 跡であり、写真の好材料となる。 中の法華岩も注目される古い遺 峠から右へ車置き場まで下る途 のばれるところである。また、 せる石である。往時の繁栄がし だけの峠である。歴史を感じさ 岳滅鬼峠の藩境石をバックに記 着午後五時。 容して四台で日田へ。小松軒到 先に歩いて下っているところと 日田へ。途中心配したが、西さ 念撮影。さすがに目的と選んだ に。峠では今回の主目的である ん一行四名がすでに林道に出て、 林道へ出て、四台に分乗して 峠までのロープの場所は慎重

いつもの宴会となる。 のごあいさつをいただき、佐藤 より今回の行事のことを含めて 部長あいさつののち、重廣さん 合計二十四名の宴会となる。支 や、日田からの二名も加わって、 忘年会となり、泊まりだけの組 (浩)副支部長の音頭で乾杯し、 入浴後、午後六時三〇分から

バンダナのお土産をいただき、 だき、アシックスのTシャツ、 人づつ自己紹介と一言をいた 廣さんのスライドによるミニ 員のサインをもらう。さらに 宴たけなわとなったところで

> 再会を約し、 ッキングで、また重廣さんとの 十九日 の冷水峠での歴史峠トレ (十二月十三日) 宴会を終了。

瓜生、 ◎忘年会のみ参加者…阿部、 野、西(あ)、西(孝)、渡部、 ◎参加者…安部、今山、加 南、安藤、飯田、宇津宮、梅木、 重廣(他アシックス三名) 小竹、佐藤(秀))、重留、 後藤、 佐藤(浩)、首藤、 藤、 阿 長

### 田

の駐 み参加の大分からの牧野さんと 東に向かい鋸山トンネル手前の 点を右折し、連見地区広域道を 合流し四名にて出発。(八:五 し、渡部さんの車を置いて熊野 駐車場へ。ここで西さんを降ろ へ下り、山香の町へ。コンビニ 過ぎ、速見インターにて一般道 車道を日田より入り、由布院を 藤)だけである。高速大分自動 か四名(重廣、西、渡部、加 の街を出発。今日は参加者が僅 受け、濃い霧につつまれた日田 台が小松軒前で全員の見送りを にて食料を調達し、下市北交差 十二月十四日午前七時、 車場へ廻る。ここで本日の

入場料二〇〇円を払 い、胎蔵

> 間となる。 間見とれながらの写真撮影の時 化遺産だ。重廣さんもしばしの 二体の磨涯仏は大分の誇れる文 という石段をゆっくりと登り、 寺前を通り、鬼が一夜で築いた 熊野磨涯仏へ。いつ来てもこの

で大分南部の山なみがくっきり わたせ、南側には別府湾を望ん すぐに由布、鶴見が南西側に見 尾根に出ると絶好の天候となり つきりと見わたせる。 と、西側には鹿嵐や八面山がは 熊野神社より登山道となる。



頂に西さんが登っているのが見 峰へもどると、前方の八方岳山 る。昨日の雪とは大ちがいだ。 おり快適な岩峰歩きの登山とな え、コールする。岩もかわいて でいったん岩場を降り、また岩 いた岩峰歩きも快適だ。囲観音 無名岩、経岩、杓子岩とつづ (鋸山大観峰にて)

まい。 紅茶、こぶ茶とホットな味がう スープを沸かし、あとコーヒー、 る。旅館の弁当はおにぎりだけ。 西さんと合流し、早い昼食をと 頂着。(一〇:三〇)

香温泉(風の郷)にて入浴。大 て熊野駐車場へ車を回収し、山 口の駐車場へ。(一二:〇〇) とはスギ林を一気に下って登山 に。全員山頂にて記念撮影。あ 大観峰へのクサリ登りは慎重 置いてあった渡部さんの車に

今回の山行は無事終了した。 大分空港にて重廣さんを送り、 の仁王像を見て、梅園記念館に 飛行機の時間があるので両子寺 分へ直接帰る渡部さんと別れて 梅園の里にてソバを食い、 (十二月十四日)

参加者… 加藤、 重 廣、 牧野、

渡部



### 時山(九五八m)の 雪の中を歩く

月月 例山行報告

部 昭

時間を五時から五時五十分に変 行の前日、 西さんから出

を考慮してなく、 り出来ると喜んで、目覚時計を 刻する。すでに参加者全員車に はよかったが、車を預ける時間 更するとの電話 五時十分に変更セットしたまで があり、

初めて二分遅

ゆつく

別府からの飯田勝之さん、福 途中六時四十分ごろ湯平大橋で サニーを二台の車で出発し、、 乗り込んでおり、五時五五分に から参加の佐藤秀二さんと合流

えられました。) どは積んでおくといいなあと教 飯田さんの車が石と雪とがつかながらゆっくりと進む。先頭の 分乗して雪の林道に入る。林道 があるが、広域農道の坂道を四 参のスコップで除雪して進む。 えて動けなくなり、安部先生持 の深まる中、スリップに注意し は車の轍はついているが、積雪 雪の量がさらに増え、牧場入り 扇山団地入り口を林道に入ると 輪駆動車はらくらく上っていく 車一台を農道に置いて、三台に 口でチェーンを装着する。普通 (雪山にはスコップ、鋸、鉈 湯平温泉を過ぎると道路に雪

道は深い雪に覆われたままであ る。奥山の静寂の中、 はには轍もなく、谷沿いに続く 木が倒れて道を塞ぎ、そから先 五キロほど進んだところで杉 雪はますます深くなり、一・ にきらきらと舞う素晴らし 粉雪が

鶴首会談の結果、 当初計

て時山(トキサン五九八m)が ナガミズ山とフキクサ山を断念 し、代わりに登る近くの山とし

傾斜が急になると四駆も前進が 折する。この林道も雪が深く、 内山大池方面に至る林道へと左 引きをしているのを見ながら、 場を見つけて駐車する。 厳しくなり、 は駅伝のための雪かきやライン 道を阿蘇野に入り、内山集落で 雪道をUターンして、広域農 道路脇の適当な広

がラッセルしながら進む。 頭は飯田さんと佐藤(秀)さん れて雪はますます深くなり、先 道と別れて右折する。登るにつ 地図を見ながら大池方面への林 登ると林道は三叉路の分岐で、 十五分に出発する。十五分ほど ここから林道歩きだ。九時四

山が望まれるようになり、しば左手の遠くには祖母、傾、桑原 さである。山腹を登っていく林 谷を挟んで近くに、そしてその 手前の花牟礼山、ナガミズ山が 上部分が雲に隠れて見えないが、 白く輝いていた。九重連山は頂 に鍋谷川が流れ、 田畑や原野が俯瞰され、真ん中 開けて、右手(南)に阿蘇野の 道は、高度を増すにつれ視界も に途中で一枚脱ぐほどの穏やか が舞うが、 たどりながら登っていく。 ろから声あり、前の人の足跡を う少し歩幅を小さくして」と後 天候は時々薄日がさし、粉雪 風は弱く、登るほど 周囲の山々も

> 林道はいったん時山に連なる主 五分である。 どで山頂に着いた。十一時二十 の肩から左に引き返すように灌 のまま向こうへ下っている。そ 南を巻いてその肩に出ると、そ ん登っており、最後のピークの がかすかに見えた。林道は右 って由布、鶴見と雨乞、城ガ岳 木の尾根を掻き分けると五分ほ ピークを巻くようにしてどんど 稜上に出た。そこからは雪に煙 三叉路から五十分ほど登ると (南東) に稜線上のいくつかの

(時山山頂にて)



立っている。三等の三角点があ 見えている。大きな岩の前には や城ガ岳が雪に煙ってかすかに 内の田畑や集落を挟んで雨乞岳 北側は低い樹木の梢越しに、庄 「時山山頂九五八m」の標識が 山頂は樹木に覆われており、

> さんの音頭で「万歳」と「ヤッ ティックを突っ込んで探すがな て一二時少し前に下山開始。 を探すが見つからず、あきらめ を撮る。その後もう一度三角点 ホー」で締めたあと、記念写真 かなか見つからない。 立ったままで昼食をとり、西

山で、今回のハプニングがなか 上っており、ハイキング向きの た時山には林道が山頂近くまで 出に残る楽しい山行でした。ま 経験の少ない私にとっては思い れを癒し、至福の時を過ごす。 中湯平温泉の「銀の湯」(入浴 うにして下りて、一二時五○分 目的の山を変更するなどハプニ 料一〇〇円)に入り、山行の疲 に車のところに着く。帰路は途 ったら登ることはなかったとハ グ続きでしたが、雪山登山の 今回は雪に立ち往生したり、 下りは登りの足跡をすべるよ

ました。

計画したことなどの説明があり

プニングに感謝・・・。 (一月二十五日

駄句を少々

・ひとすじに雪踏み分けし 初登山

駅伝に部落総出の除雪かな 時山や三角点は雪の中

参加者…安部、 佐藤、 野、長野、西、飯田、石川、 渡加

### 地 日 支 岳 部 会

るはずと皆で雪を掘ったり、

ス

が寸断されていました。 会が行われました。一七日は、本山岳会の九州地区五支部懇談 から一八日(日)に宮崎市で日平成一六年一月一七日(土) 今冬一番の寒波襲来で、北部九 佐 秀二

に出発したものの、先発した飯 り荘」に到着しました。 崎市の懇談会場である「ひまわ 予定よりおよそ一時間遅れて宮 ○分以上の足止め。その結果、 上り坂で積雪の影響と思われるていた宗太郎峠の手前の重岡の 由の道に変更。しかし、心配し 国道一〇号線を南下する佐伯経 田さんの連絡で、三重経由の国 渋滞に巻き込まれ、ここで約四 通行不能の状態と連絡が入り、 道三二六号線は積雪で三国峠が 東九州支部は大分を一〇時前

ことなどを報告しました。 が、東九州支部の活動状況を報 たところで、早々に梅木支部長 各支部の活動状況報告が終わっ 会議中の会場に入場。ちょうど 告。「大分百山」の発刊や月例 会議の開始時間に間に合わず 山で分水嶺の山に登っている

> あれば登れることや七千メート としては本来ならヒマラヤなど 山をということで「分水嶺」を いることから、みんなで登れる クトがなく登れる人数もしれて ど、もはやエベレストもお金が の高山に登るところであろうけ ことや記念誌の発刊、記念山行 の話がありました。記念大会の ○周年記念事業の推進について の藤本慶光理事よりJAC一〇 あり、続いて記念講話で、本部 級の未踏峰に登ってもインパ ヒーマグ)の贈り物が全員に 部会員の手作りの焼き物

と楽しんで頂けたようです。 い大分弁に「おもしろかった」 して結構うけていました。珍し 分弁」を一人づつみんなで披露 ーでしたが、東九州支部は「大 支部はいつもながらの歌謡ショ この後お楽しみの懇親会が行わ 大いに盛り上がりました。他の れ、各支部からの出し物などで 一七日の会議はこれで終了。

岳公園から山 付いて登山開始。登り口の法華 支部に宮崎支部の人が二名ずつ 導で入念な準備運動。その後各 口では宮崎支部のリーダーの指 延岡から太田さんも参加。登山 の釈迦ヶ岳に登山。この日は、 翌一八日は、交流登山で国富 頂まではおよそ二

れを示す標識があり、 登山道には、一合目ごとにそ わかりや

山道に入り、少しの急登の後、なくなりそうです。六合目から の上屋(薬師寺奥院)のある山 最後の稜線をひと登りで、木造 樹間にに見えたりしきました。 く雪化粧した高千穂ノ峰などが えてきて、左手(南方)には薄 くと、後方には遠く日向灘が見 尾根道を登り、高度を上げてい がらの登山。近い将来六合目ま 稜線が連なって見えました。 掃部岳、式部岳とそれに連なる の坂をちょっと登ると三角点の って見えています。奥院の後ろ で林道が舗装されて登る山では 射しに眩しく宮崎平野が広が やがて山腹をジグザグした後、 振り返ると靄に煙って

太田、

(梅木=懇談会出席)

山頂で東九州支部がバンザイ (釈迦ガ岳山頂にて)

とに記念撮影をして下山。 心配もあったので、この後の ヤッホーをし、バンザイとヤッ をすると、熊本支部も負けずに 大分へ戻りました。 ホーの競演です。 「酒仙の杜」の見学をパスして、 駐車場で昼食をとり、道路の その後支部ご

参加者…飯田、加藤、佐藤、 (一月一八日) 西

西 あず

とわずかです。 りませんでしたが、山頂まであ さらされ立っているのもままな 尾根に出ると、北からの烈風に 打ち、足取りも重くなります。 り、鼓動は早鐘のように激しく 根に出る手前は斜度もきつくな だんだん感覚が薄れていき、尾 快晴ながら強風のため指先は

れています。 下は凍てついたかたい雪で覆わ 風で新雪は吹き飛ばされ、足の 響でニメートルです。山頂は強 ているはずの積雪が、暖冬の影 樹林帯では三メートルを越え 気温は快晴でも常

> 風のため体感気温はぐんぐん下 がります。 にマイナス一○度を下回り、

ね! この山だか知りたくなりますよ ……っと、ここまで書くと、ど

形に広がっています。 西からアンヌプリ、東山、ひら あの有名なスキー場です。ニセ ふ、花園と四つのスキー場が扇 ブリ(一三〇八旦でした。えつ! コアンヌプリは南斜面を中心に 実は、北海道のニセコアンヌ

冷たく痺れてきます。 度の斜面をスキーブーツで登る 四〇分ほど登れば山頂に着きま ことになる上に、 す。とは言え、三五度から四〇 ひらふの山頂リフト終点から ばいけません。板を持つ手が 板を担がなけ



通しの良い日でなければパトロルートが無いので、晴れて見 (ニセコスキー場にて)

強 没収されてしまいます。 から警告を受けリフト券を

私

無名山ガイドブックの

田

勝

之

かな登りで山頂に着きます。 風を真正面に受けるので立って 斜面の景色に息をのみますが、 いられません。尾根からは緩や 尾根に出ると、初めて見る北

パートについて、つかのバリエ

ショ

羊蹄山に日本海まで見えます。 さあ五〇〇〇mを一気に滑降です 山頂でパノラマを満喫したら、 ら冷や汗を流し、時折入るつも まそうですが、ドキドキしなが で腰まではまりながら、本来の りもない吹き溜まりに突っ込ん す。……と書くと、そーとーう にシュプールを描くのは爽快で だーれも滑ってないスロープ チセヌプリにワイスホルン、

まで入って滑りましたが、今年雪しない樹林コースは新雪に膝ナーから聞きました。去年の圧 ゲレンデに戻ります。 暖化の影響でしょうか? は足首までです。これも地球温 珍しいこととペンションのオー たり前で、三日間も晴れ続きは 一月のニセコは連日吹雪が当 登山者ではなくスキーヤーと

すが、あまりに晴れ上がった空 に登る気など更々無かったので してニセコに行ったので、山頂 んと三百名山の一つでした! スキーのついでにピークハン したニセコアンヌプリは、 かれてしまいました。

ト(その②)

キー景色を楽しむ。 登りでちょっとご機嫌になり雄 にそ、山頂で缶ビールとウイス 一そり立つ大障子を目指して 行三名は、八丁越から目前

大障子岩から 6

ていは八丁越へ引き返し、再び 遠くる。タップリ景色を楽しん や何の九重連山も頂を白く見せ 晦の山頂を霧氷が白く染め、 秋の朝の冷え込みは、 池原と祖母を望む) 祖母

て進んだ。ザックを背にして池原を目指し

登ってきて、稜線に出た時、他原から直にメンノツラ谷とことが大事である。展望岩かることが大事である。展望岩から一〇〇メートル足らずのところにそのルートの入り口がある。ろにそのルートの入り口がある。ち一〇一メートル足らずのとこら一〇一メートル足らずのとこら一〇一メートル足らずのとこらしてかがで通り過ぎていた。初めて下からな入り口があるのは気づかずに通り過ぎていた。初めて下からな入り口があるのは気づかずにある。

く。この道は初めての場合など、 を頼りに、ほぼ真西に、小松尾 目印のテープやわずかな踏み跡 もたなる。ところどころにある りとなる。ところどころにある 目印のテープやわずかな踏み跡 を頼りに、ほぼ真西に、小松尾 を頼りに、ほぼ真西に、小松尾 を頼りに、ほぼ真西に、小松尾

ないだろう。自信がない場合は危なくて下れ

スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いとこころはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ スズタケの濃いところはこぐ

キの造林地となる。造林地の中 ららの下がった水場を左に見て がらの下りが続く。このあたり があるだけのこのヒノキ林の中 ていく。林内にわずかな踏み跡 ラバース気味に斜面を登り返し の枯れ谷状のところを渡り、ト 現れて、その下は緩傾斜のヒノ 少し下るといきなり急な岩場が る。縦走路から約三十五分でつ は猛烈に息を荒げるところであ は、ヤブを分けながらの登りに なり、木の枝やスズに捕まりな ていくと、ますます急な下りと 深いスズの中をどんどん下っ ルートを見失い易いところ

沢音を聞くようになり、スギの沢音を聞くようになり、スギのとなり、トラバース道から稜線となり、トラバース道から稜線となり、トラバース道から稜線となり、トラバース道から稜線となり、トラバース道から稜線となり、トラバース道がら稜線となり、カエデやシラキ、リョウをアブラチャンなどの二次林

○参考タイム…大障子岩~0:30~ 小丁越~1:20~池原~0:30~ 水場~045~旧造林小屋~1:00~ 八丁越登り口



### 年次晚餐会報E

西

孝子

「こんなところに入り口があっ

これで八千メートル一四座を単保天候にもめげず見事に成功。スト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。支部員のスト・ローツェ報告。

本 マ マ で を で を は の に の は の は の は の は の は の に の は の に の は の に る に 。 。

年のご無沙汰をわび、おしゃべ年のご無沙汰をわび、おしゃべ年のご30~ に一番乗り。はじめにテーブルで1:00~ マスターが指定席座る。次が一般で今年も重度会員のところに

てもおいしい。 しい。朝食ぬきで空腹。何が出 定刻に開始、カンパイが待ち遠

横と予想する。 られるか話題となったが、私の 皇太子殿下はどこをお通りにな 開会前のおしゃべりの時間に

今年は皇太子殿下は、雅子妃殿下のご入院でご参加いただけないのではと思っていたが、おいでになるとのこと。入場と同る。不思議だ。魔法にかかったる。不思議だ。

> 午後九時に高輪プリンスホテ 年後九時に高輪プリンスホテ 年後にして品川駅へ。

## 高尾山(五九九m)

真代)を入れて渡す。 住所、氏名を書き、五百円(写の人)に案内をお願いする。登 の人)に案内をお願いする。登 を表情れ。曙橋で会員(長野県 では係りの方へ封筒に、 は、 の人)を入れて渡す。

真展を見る。知人をさがし、一

午後四時、受付をすませて写

十時二十分出発。福山コース十時二十分出発。福山コースは思ったより細くて静かである。は思ったより細くて静かである。は思ったより細くて静かである。は思ったより細くて静かである。は思ったより細くて静かである。にながら、休まずに登る。汗を流し、役もネパール行きのトレーニン役と、休まずに登る。汗を流し、役もネパール行きのトレーニン役と、休まずに登る。汗を流し、ところでは、私をはい抜いた人達が荒を呼吸をしながら休んでいる。

陽が私をいじめる。
で声は出ない。夏山のように太話しかけたいが「ハア、ハア」

る。 八王子や都心の方まで見えてく 急坂を過ぎると、木の間より

赤い実、野鳥の姿も目につく。 名を教えていただいたが、メモ 草花に詳しい人がいて、多くの る様子はたいしたものである。 いるが、道以外へは入る人もな が沢山落ちている。ガマズミの コナラの大木の下にはドングリ 木や草が私にほほえみかけてく もよく、植物が自由に茂ってい していないので忘れてしまう。 アケビ、ムラサキシキブなど 「自然を大切に」と書かれて 一山者が多いわりには管理

た全国支部懇談会で会いましょ とお願いし、腹の虫の機嫌をと くれる豚汁を「具たくさんに」 う」と、食べながら、笑いなが る。毎年おきまりの顔々、「ま 山頂到着、十一時半。注いで 飲みながら・・・。

らたこの足である。これは八王 幹回り六メートル、 子の天然記念物に指定されてい 齢四五〇年、高さ三七メートル 薬王院の横を通るとたこ杉。樹 東京、大阪、九州の女の知り合 い三人でメインルートを下る。 記念写真を撮り、十二時半、 根はさなが

ぎやかである。 の両側は食堂、 歩く人も少ない道を、眼下の都 近くだけで、後はハイカーのみ。 した人達が多く、、舗装した道 フトを利用する、 しかし、にぎやかなのは寺の おみやげ店とに ケーブルやリ 普通の服装を

> 中の人となる。 に駅へと急ぎ、午後二時には車 意するまでもない道を、小走り 心を見ながら下る。足もとに注

心は見えない。事業委員会の方 よし。ただし晴天でなければ都 京で一日あれば寺参りに行くも 〇分、片道三七〇円である。東 高尾山は京王線新宿駅より五



### 月月例山行の お 知 5 せ

・目的 出 (野上川と深見川との 二月一五日(日) (水分峠・日出生台) 平家山 (1023m) カルト山 (1033.5m) 分水嶺) 二月一五日(日)

三月月例山行の

午前六時〇〇分サニ

·目的地 月 白鳥山(1638.8m) 三月二一日(日)

·目的地 日

二月二九日 (日)

日

冷水峠 (福岡県)

二月二九日 変更が考えられます 局へご連絡下さい。 ので、参加希望者は 予定。なお、時刻の 午前五時サニー発の 一週間前までに事務

·日時 三月一八日 (木)

積雪の鶴見岳北尾根歩きを

思いつき、鞍ガ戸から船底へ

と外しぶりの雪稜歩きを楽し

(宮崎·熊本県境) (耳川と五木川との分

三月二〇日(土)

|月月例山行の 午後五時〇〇分サニ 出発。

m)、フキクサ山(1309 ナガミズ山(1310. 一 四月一八日(日)

川と阿蘇野川との分 (花牟礼山群)(鳴子

後

午前五時サニー発

0 が家の狭い庭も久々にうっす 日厳しい寒さが続き、先日我 寒に入って急にこのところ

○ このセンリョウ、実は私は のようです。 のヒョドリが運んできたもの 目当てに飛んで来る、常連客 どうやらクロガネモチの実を と、真っ赤な実がそれは見事 ウです。白い雪と、澄んだ緑 彩りがありました。センリョ 植えた覚えがないのです。 な色合いを見せています。 その中でひときわ目を引く

コンパルホー 平成一六年度総会につ 1

さらに深い積雪でした。 と、花ノ台下の北西側斜面 雪に驚きつつ船底新道に入る

定期総会

・月日 ・場所・時刻等詳しいことは別 途お知らせします。 四月一七日 (土)

本部会費一二〇〇〇円及び百周 会費の納入に つい

年行事費三〇〇〇円。 支部会費 000円

T

○ 名前とは裏腹のこの荒れ果 間足らずで到着する、馬ノ背 こと約二時間半。夏なら一時 埋まる雪。このごろ慣れない 深いところは腿の中程まで てた林道は、深いブッシュと ラッセルで、息を荒げて進む どり着きました。 への登りの分岐までやっとた

5 日 (平成1 6 1 2 秀 木

発行者 編集者 発行所 飯 田 勝 〒870-0021 大分市府内町1 之

市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子 TEL·FAX 097-532-0926